



## NICU入院中の先天性心疾患児に母乳育児を行うこと に対する母親の思い

著者	山崎 由美子, 中嶋 有加里, 佐保 美奈子, 渡邊 香織
雑誌名	母性衛生
巻	62
号	2
ページ	293-300
発行年	2021-07
その他のタイトル	Mothers' thoughts on breastfeeding their infants with congenital heart disease during NICU hospitalization
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/00017881">http://hdl.handle.net/10466/00017881</a>

原著

# NICU 入院中の先天性心疾患児に 母乳育児を行うことに対する母親の思い

近畿大学病院

山崎 由美子

大阪府立大学大学院 看護学研究科

中嶋 有加里

佐保 美奈子

渡邊 香織

## 抄 録

目的：本研究は、NICU (Neonatal Intensive Care Unit) 入院中の先天性心疾患児の母乳育児を行うことに対する母親の思いを明らかにすることである。

方法：1歳半未満の先天性心疾患児の母親で、児がNICU入院中に母乳育児経験がある9名に半構成的面接を行い質的帰納的に分析した。

結果：母親は、胎児診断後【妊娠中に母乳育児を諦めかけたが可能性を知り嬉しい】と母乳育児の思いが揺れた。出産後は【状態が良くなるように一滴でも多く母乳を飲んで欲しい】【児の病状の回復を直接授乳で直に感じられて嬉しい】【母親役割を果たしたい思い】がある一方で【児が飲んで育ってくれば良いので母乳育児には拘らない】【直接授乳中の児にかかる負担が気になる】【制約がある中での母乳育児へのやるせない思い】もあった。

結語：先天性心疾患児の母親は、母乳育児を希望しているが児にかかる負担を気にする思いもある。その思いに寄り添った、妊娠中からの精神的支援、産褥早期からの母乳分泌促進・継続、個々に応じた直接授乳などの母乳育児支援、児のケア参加の促しなど、育児への参加感と母親役割の満足感が得られる支援が重要である。

キーワード：先天性心疾患、母乳育児、NICU、母親

## I. 緒 言

先天性心疾患 (Congenital Heart Disease: CHD) の発生率は1%であり、3~5%で発生する先天性形態異常の中で最も発生頻度が高い<sup>1)</sup>。診断率が高い施設では、生後1年以内に治療を要する重症CHDの60%が胎児診断されている<sup>2)</sup>。CHDは胎内で状態が悪化することはまれで、一部を除き妊娠中は通常の産科管理が行われる<sup>3)</sup>。出生後、血行動態の変動が少ない心室中隔欠損症や心房中隔欠損症以外は血行動態の管理や手術を必要とし、NICUに入院することが多い<sup>4)</sup>。

母乳育児は、栄養学的、免疫学的、母子関係形

成の上で優れていることからNICU入院中の児にも推奨されている<sup>5)</sup>。CHDは壊死性腸炎を合併しやすく、発症予防として母乳の免疫効果が期待されている<sup>6)</sup>。CHD児にとって母乳は、体重増加が良好なことや入院期間が短いこと、直接授乳は、哺乳瓶での授乳に比べて平均酸素飽和度が高く変動が少ないため予後に良好な影響を与える<sup>7~9)</sup>。CHD児の母親の7割が出産前に母乳で育てたいと考え、母乳の継続とCHDの重症度に関連がなく、その約3割が入院中に母乳から人工乳に切り替わっている<sup>7)</sup>。CHD児の母乳育児成功の障壁は、術前術後の絶食、医療従事者の方針、

児が入院中の乳汁分泌量の維持、母親の不安、乳児の吸啜が弱く疲れやすいことである<sup>10)</sup>。CHD児の母親の心理として、段階的手術を必要とする場合、妊娠期から出生直後まで子どもが亡くなる可能性についての不安や心配<sup>11)</sup>、病状がよくわからない不安、予後に対する不安などを感じている<sup>12)</sup>。CHD児の母親が希望通りに母乳育児を行なえていない現状、母乳育児成功の障壁、児の病状や予後に対する不安については明らかとなっているが、児がNICU入院中にどのような思いで母乳育児を行っているかについては明らかにされていない。

本研究の目的は、NICU入院中のCHD児の母乳育児を行うことに対する母親の思いを明らかにすることである。それにより、CHD児の母親の思いに寄り添った母乳育児支援について示唆を得ることができる。

#### <用語の定義>

##### 母乳育児：

母乳を直接授乳または哺乳瓶や経管栄養法で1日1回でも子どもに与えている場合とする。

##### 母乳育児を行うことに対する思い：

母親がNICU入院中のCHD児に対して母乳育児を行う中で感じたことや考えたこと。

## II. 研究方法

### 1. 研究参加者

A病院NICUに入院歴があり、外来通院中で状態が安定している、正期産で出生した1歳半未満のCHD児の母親とした。児がNICU入院中に母乳育児の経験があり、情緒的に安定し面接可能と判断されている母親とした。

### 2. 研究デザイン

質的記述的研究

### 3. データ収集期間

2019年7月～12月

### 4. データ収集方法

診療録より基本属性として、児と母親の年齢、初産、分娩様式、出生時体重、アプガースコア、新生児搬送の有無、児の疾患経過として、診断名、胎児診断の有無、入院日数、NICU入院中の手術歴を事前に収集した。面接は、児の外来受診日にプライバシーが保たれる個室で1人40分程

度実施した。インタビューガイドをもとに、児がNICU入院中に母乳育児を行うことに対する思いを想起してもらった。面接内容は、研究参加者の同意を得て録音とメモを取り、録音の同意が得られなかった場合は、同意を得てメモを取った。

### 5. 分析方法

面接毎に逐語録を作成し、最小単位に分けたデータから具体的な描写やニュアンスについてデータに忠実なコードを付けた。さらに、データの類似性に注目し内容を統合してサブカテゴリー化の後、意味が類似するものをカテゴリー化した。生成されたコードを以前のコード・カテゴリーと継続比較した。また、信用性と確証性を確保するため、母性看護学・小児看護学の研究者、質的研究者である複数の教員よりスーパーバイズを受け、分析の方向性や内容を検討した。

### 6. 倫理的配慮

研究実施にあたり大阪府立大学大学院看護学研究科倫理委員会（申請番号2019-15）と研究協力施設の倫理委員会の承認を得た。主治医より研究者紹介の承諾が得られた研究参加者に、研究者が研究目的・方法、匿名性の保持、研究成果の公表について説明し同意を得た。研究への参加は自由意思とし、希望により研究の中止が可能であり、研究に不参加の場合や途中で研究を辞退した場合に不利益がないことを保障した。

## III. 結果

### 1. 研究参加者の概要

CHD児の母親9名で全例経産分娩であった。経産婦5名の同胞にCHDは認めず、前回は母乳育児を行っていた。研究参加者Bのみ胎児診断されておらず出生当日に児がA病院へ搬送され、翌日に母親がA病院に転院した。児の疾患は、総肺静脈還流異常、純型肺動脈閉鎖、ファロー四徴症、単心室、完全大血管転位症などの重症CHDであった。術後乳び胸を発症した1名が母乳中止となった（表1）。

### 2. 面接状況

面接は、研究協力施設内のプライバシーの確保できる個室で実施した。面接所要時間は18～47分、平均（32±8.8）分であった。

表1 研究参加者の概要

記号	年齢	初経産	出生時体重 (g台)	AP <sup>*</sup>	NICU入院中手術歴	NICU入院日数	母乳育児の状況	母乳育児終了時期
A	30代前半	初	2,700	8/9	姑息術	48日	搾乳・直接授乳	退院後
B	20代後半	初	3,400	8/9	姑息術	151日	搾乳・直接授乳	退院時
C	30代前半	経	3,100	8/9	根治術	46日	搾乳・直接授乳	退院後
D	20代後半	経	3,000	8/9	姑息術	125日	搾乳	入院中(1か月)
E	20代前半	初	3,000	8/9	根治術	54日	搾乳・直接授乳	退院時
F	20代前半	経	2,800	8/9	無	17日	搾乳・直接授乳	継続中
G	40代前半	初	2,200	6/8	無	36日	搾乳・直接授乳	退院後
H	20代後半	経	2,500	8/9	根治術	30日	搾乳・直接授乳	入院中(10日)
I	30代前半	経	2,600	8/9	無	23日	搾乳・直接授乳	退院後

\* AP: Apgar Score

3. データ分析の結果

NICU入院中のCHD児に母乳育児を行うことに対する母親の思いは、7カテゴリー、22サブカテゴリー、271コードから構成された(表2)。

カテゴリーを【】、サブカテゴリーを〔〕で示す。研究参加者の語りは「斜字」で記載し、意味内容が成り立つように一部言葉を補足( )した。文末のアルファベットは、表1の研究参加者を示す。

1) 【妊娠中に母乳育児を諦めかけたが可能性を知り嬉しい】

CHDであると胎児診断を受け「(母乳を)あげたいと思っていたのが(妊娠中に児の心疾患が分かり)できないと思っちゃって悲しくなった」と「胎児が心疾患と知り母乳育児はできないかもしれないという思い」から母乳育児を諦めようとしていた。しかし、医療者より母乳育児が可能であると説明を受け「搾乳器を使えば(母乳を)あげられると聞きやっぱり嬉しい」と「妊娠中に心疾患があっても母乳育児ができることを知り嬉しい」思いが示された。

2) 【状態が良くなるように一滴でも多く母乳を飲んで欲しい】

児にCHDがあるからこそ「母乳は免疫がつくし初乳は飲ませたほうが良いと聞くので、一滴たりとも持って行って…」という思いや「これ(搾乳)を持って行ったら、ちょっとでも元気になるかもっていうのはあった」「(病気の児に)ただただ栄養を届けたいという感じで」などの思いから

【免疫をつけるために一滴でも多く初乳を飲んで欲しい】「病状が良くなって欲しいのでただただ母乳の栄養を届けたい」などが示された。CHDをもつ児に少しでも多く母乳を飲ませたい思いであった。

3) 【児が飲んで育ってくれば良いので母乳育児には拘らない】

命に関わる疾患をもつ児の病状や手術などが心配で気持ちに余裕がなく「生まれてからは、生きてくれるなら別に母乳でもミルクでもどっちでも良いという感じ」であり、「病気のことが気になるので母乳に拘り過ぎない」や「病気や手術のことで頭がいっぱいで母乳育児に意識が向かない」思いが示された。また、CHDをもつ児が順調に成長できるか心配で「病気があるので大きくなるために母乳でもミルクでも飲んで欲しい」思いが示された。

4) 【児の病状の回復を直接授乳で直に感じられて嬉しい】

児の病状や治療のため抱っこや直接授乳ができず「初めはあげられなかったのも、やっとあげられるとなるとなりやっぱり嬉しい」と「抱っこして肌に触れて母乳をあげることがやっと叶って嬉しい」思いが示された。また「抱っこか直母ができるようになって、前向きに、だんだんちゃんとなってきたかなという感じ」や「手術終わってからグンって目が覚めるようになった。(中略)(母乳を)より一層飲むようになったって感じ」といった「児の病状の回復を直接授乳ができることで実

表2 NICU入院中のCHD児に母乳育児を行うことに対する母親の思い

カテゴリー	サブカテゴリー	主なデータ
妊娠中に母乳育児を諦めかけたが可能性を知り嬉しい	胎児が心疾患と知り母乳育児はできないかもしれないという思い	(母乳を)あげたいと思っていたのが、(妊娠中に児の心疾患が分かり)できないと思っちゃって悲しくなった(D)
	妊娠中に心疾患があっても母乳育児ができることを知り嬉しい	搾乳器を使えば(母乳を)あげられると聞きやっぱり嬉しい(D)
状態が良くなるように一滴でも多く母乳を飲んで欲しい	免疫をつけるために一滴でも多く初乳を飲んで欲しい	母乳は免疫がつくし初乳は飲ませたほうが良いと聞くので、一滴たりとも持って行って(B)
	病状が良くなって欲しいのでただただ母乳の栄養を届けたい	これ(搾乳)を持って行ったら、ちょっとでも元気になるかもっていうのはあった(C) (病気の児に)ただただ栄養を届けたいという感じで(A)
児が飲んで育ってくれば良いので母乳育児には拘らない	病気のことが気になるので母乳に拘り過ぎない	生まれてからは、生きてくれるなら別に母乳でもミルクでもどっちでも良いという感じ(A)
	病気や手術のことで頭がいっぱいで母乳育児に意識が向かない	手術のことで結構頭がいっぱいで、おっぱいをあげるのも流れ作業みたいな感じで行ったらとりあえずする感じ(H)
	病気があるので大きくなるため母乳でもミルクでも飲んで欲しい	病気とかあったから、どちらでも良いから取りあえずたくさん飲んで大きく育てて欲しいという思いが大きかった(C)
児の病状の回復を直接授乳で直に感じられて嬉しい	抱っこして肌に触れて母乳をあげることがやっと叶って嬉しい	初めはあげられなかったの、やっとあげられるとなるとなりやっぱり嬉しい(F)
	児の病状の回復を直接授乳で実感し前向きになれる	抱っことか直母ができるようになって、前向きに、だんだんちゃんとなってきたかなという感じ(A)
	しんどさが軽減しているのを哺乳力の強さから感じられて嬉しい	手術終わってからグンッって目が覚めるようになった。(中略)(母乳を)より一層飲むようになったって感じで、飲む量と力が増えていったって感じ(A)
直接授乳により児にかかる負担が気になる	授乳中は酸素飽和度が低下したりしんどくならないか心配な思い	唇の色とかちゃんと見てこう大丈夫かなって、それはめっちゃ気にしてた。(中略)モニターと顔色とを見て、酸素数が下がっていかへんとか、顔色が悪くないとか、脈も大丈夫とかかもそればかり気にしてた(I)
	術後の傷に当たると痛そうで直接授乳をするのが不安な思い	(術後の傷が)痛くないのかなとすごい思った。(中略)飲ませる時は当たらないようにとすごく不安だった(C)
	児が疲れたりしんどくなりそうで直接授乳を続ける勇気がない	上手く吸えず泣いてしまうのでチアノーゼが出るかとも思い(直接授乳を)根気強く続ける勇気がなくてやめてしまう(G)
	点滴ルートや医療機器のラインがあり直接授乳をするのが怖い	(直接授乳時に)点滴やパルスオキシメーターなどの線をひっかけないかどうか怖くて(A)
制約がある中で母乳育児へのやるせない思い	病状から直接授乳ができずやるせない思い	搾乳はあげられても、抱っこしてこう抱えて自分の肌に触れていない感じがちょっと違う(D)
	直接授乳前後の哺乳量測定によるもどかしい思い	吸いながら寝てくれて幸せを感じているのに、体重測定をしなければならず、くそっ起きてしまう、あー起きてしまったと可哀想に思う(B)
	授乳量や時間に制限がありもっと飲ませてあげたい思い	(規定量を)超えてしまうと次に流らさなければならぬのでちょっとやっかいに思う(B)
	直接授乳や搾乳は服薬時間との時間調整が難しい	薬を飲む時間があり、(直接)母乳だと時間を調整したりというのが難しいところがある(C)
母親役割を果たしたい思い	乳び胸で母乳育児ができなくなりもっとあげたかったという思い	(術後乳び胸になり)直接授乳は2週間と期間が短すぎて、あまり印象に残ることがなくもっとあげられたら良かったのと思う(E)
	この子の母親だと直接授乳をすることで実感できる	(初めて吸ってもらった時は)本当に自分の子が生まれたんだみたいな、これから育てていくんだという感じ(A)
	母親の自分にしかできないことをしているという思い	抱てる方が気が落ち着いたかな。まだ何かしてる感じがあるから。(中略)おっぱいあげる方が、まだちょっとは母親のことしてるかなみたいな(F)
自分が元気でいなければ母乳をあげられないという思い	自分が元気でいなければ母乳をあげられないという思い	自分がまず元気でないと、こうやっておっぱいもあげられないし、抱っこもできない(A)

感じ前向きになれる) [しんどさが軽減しているのを哺乳力の強さから感じられて嬉しい] 思いが示された。直接授乳がやっと思えるようになったことで児の病状の回復が実感でき、嬉しかったり前向きになれるりする思いであった。

#### 5) 【直接授乳により児にかかる負担が気になる】

直接授乳中は「唇の色とかちやんと見てこう大丈夫かなって、それはめっちゃ気にしてた。(中略)モニターと顔色とを見て、酸素数が下がっていかへんかとか、顔色が悪くないかとか、脈も大丈夫かとかもそればかり気にしてた」と児の状態が悪くならないか心配や不安な気持ちで緊張しながら直接授乳をしており[直接授乳は酸素飽和度が低下したりしんどくならないか心配な思い]が示された。「上手く吸えず泣いてしまうのでチアノーゼが出るかも」と思い(直接授乳を)根気強く続ける勇気がなくてやめてしまう」など[児が疲れたりしんどくなりそうで直接授乳を続ける勇気がない]と児の体調を気遣い直接授乳を継続できずに終了してしまうことが示された。その他[術後の傷に当たると痛そうで直接授乳をするのが不安な思い][点滴ルートや医療機器のラインがあり直接授乳をするのが怖い]思いが示された。

#### 6) 【制約がある中での母乳育児へのやるせない思い】

直接授乳をしたいが病状からできず「搾乳はあげられても、抱っこしてこう抱えて自分の肌に触れていない感じがちょっと違う」といった[病状から直接授乳ができずやるせない思い]が示された。また、哺乳量を知るための授乳前後の体重測定が必要であり「吸いながら寝てくれて幸せを感じているのに、体重測定をしなければならず、くそ一起きてしまう、あー起きてしまったと可哀想に思う」など[直接授乳前後の哺乳量測定によるもどかしい思い]が示された。他に[授乳量や時間に制限がありもっと飲ませてあげたい思い]などが示された。

#### 7) 【母親役割を果たしたい思い】

母乳育児により「(初めて吸ってもらった時は)本当に自分の子が生まれたんだみたいな、これから育てていくんだという感じ」や「搾ってる方が気が落ち着いたかな。まだ何かしてる感じがある

から。(中略)おっぱいあげる方が、まだちょっとは母親のことしてるかなみたいな」といった思いがあった。[この子の母親だと直接授乳をすることで実感できる][母親の自分にしかできないことをしているという思い]など自分の子であり自分が育てていくという実感が得られ、母親役割を果たしたい思いが示された。

## IV. 考 察

### 1. 母乳育児の希望

研究参加者では、CHDと胎児診断を受け【妊娠中に母乳育児を諦めかけたが可能性を知り嬉しい】という思いが示された。妊娠中93%の妊婦が母乳で育てたいと希望していることから<sup>13)</sup>、胎児診断前に母乳育児を希望している妊婦は多いと推測できる。研究参加者においても妊娠中に母乳育児を希望していたが、胎児診断後に思いが揺らいでいた。胎児診断後は、疾患や出生後の病状がよく分からない状況から、抱っこや母乳育児はできないだろうと諦めがみられたと考えられる。胎児の先天性疾患を指摘された妊婦や家族が最初に抱く不安として、子どもを抱っこできない、母乳があげられないのではないかなどが多いとされている<sup>12)</sup>。胎児診断後、妊婦健診で疾患の理解や受容状況をみながら、搾乳による母乳育児が可能なことや搾乳方法の説明、手術や治療による直接授乳の可能性を伝えるなど、妊娠中から母乳育児を希望する思いに寄り添った支援が重要である。

児の出生後、研究参加者では【状態が良くなるように一滴でも多く母乳を飲んで欲しい】【児の病状の回復を直接授乳で直に感じられて嬉しい】思いが示された。母乳育児により【母親役割を果たしたい思い】が示され、搾乳や直接授乳で母乳を飲ませることに対し【母親の自分にしかできないことをしているという思い】があった。先行研究でのCHD児の母親にとって母乳育児は、児の世話への参加感と親としての役割に対する満足感が得られる<sup>14)</sup>と同様の結果であった。母乳育児は喜びや満足感を得ることができる体験であり、母乳分泌を促し母乳育児の継続ができるよう支援が重要である。

## 2. 児にかかる負担を気にする思い

児がCHDであることから【児が飲んで育ってくれば良いので母乳育児には拘らない】【直接授乳により児にかかる負担が気になる】という思いが示された。

CHD児の親は、出生前診断を受けていても、出生後の子どもの状況を目の当たりにしたとき、改めて子どもが病気であることを認識して動揺し、この子は生きていけるのかと混乱したり不安が増すとされている<sup>15)</sup>。研究参加者は、出生後の児の病状や手術など治療の状況から、児が生きてくれていることだけで気持ちがいっぱい、母乳育児のことを考える余裕がなくなったり、児の病状や治療の優先、成長を願う思いから母乳育児に拘らない思いがみられたといえる。

CHD児は、疾患のない児に比べて哺乳方法に関わらず哺乳時の呼吸苦や嘔吐がみられやすく、体重増加も悪い<sup>16)</sup>。直接授乳の方が哺乳瓶からの哺乳よりも平均酸素飽和度が高く変動が少ないとの報告がある<sup>8)</sup>。CHD児の母親では、児にとって直接授乳の方が哺乳瓶よりも哺乳が困難で労力を要すると誤解をしている場合があり<sup>14)</sup>、研究参加者では【児が疲れたりしんどくなりそうで直接授乳を続ける勇気がない】思いがあった。直接授乳を進めるにはCHDのタイプ、手術時期や治療予定、経口哺乳の時期などを見通し、具体的な支援計画を立てることが重要とされている<sup>17)</sup>。さらに、児にかかる負担への心配や哺乳瓶より困難で労力を要するといった思いに寄り添い、安心して直接授乳できるよう個々の状況に応じた支援が重要である。

さらに【制約がある中での母乳育児へのやるせない思い】が示された。CHD児の母親は、抱っこや哺乳制限といった医療的な制限に戸惑い、親なのに何もできないといった無力感に苛まれることがあるとされている<sup>15)</sup>。母乳育児に対するやるせない思いを受け止め、産褥早期からの精神的サポートや搾乳支援により一滴でも多く初乳が与えられるよう、母乳育児により母親役割の満足感が得られるよう継続的な支援が重要である。直接授乳ができない場合は、搾乳による母乳育児、タッチング・カンガルーケア・おむつ交換などのケア

への参加、退院後児を迎え入れる準備などにより母親役割を果たせていると感じられるよう支援することが重要である。

## 3. 母乳の効果の認識

これまで、母乳育児に対する母親の思いについての先行研究は早産の低出生体重児を対象としたものがほとんどで、CHD児は含まれていない。本研究では、CHD児の母親の思いを明らかにするために正期産のCHD児の母親を対象とした。CHD児の母親の【状態が良くなるように一滴でも多く母乳を飲んで欲しい】思いは、早産児の母親の母乳育児を通した「児が順調に育ってほしい」思い<sup>18)</sup>と同様であった。早産児の母親は、早産児の未熟性から母乳でない生きられないという思いがあり「早産したからこそ生じた母乳へのこだわり」<sup>19)</sup>や早産児にとって母乳が一番良いので「早産だからこそ絶対母乳で育てたい」<sup>20)</sup>思いがあった。しかし、CHD児の母親では【児が飲んで育ってくれば良いので母乳育児には拘らない】思いもあり、母乳の効果について母親の認識の違いにより相違がみられたと考えられる。CHD児にとって壊死性腸炎発症予防<sup>6)</sup>や良好な体重増加<sup>7,9)</sup>などの母乳の効果について、母親の認識を高めることで母乳育児継続につながる可能性がある。

## 4. 本研究の限界と今後の課題

本研究では、NICU入院中のCHD児に母乳育児を行うことに対する思いが明らかとなり必要とされる支援が示唆された。今回、正期産で出生しCHD単独で外来通院している経過が良好な児の母親を対象とした。今後は、合併症をもつなどより重症なCHD児に対して母乳育児を行う母親の思いを明らかにし、危機的な状況で母乳育児を行う母親の思いに寄り添った支援を検討することが課題である。

## V. 結 語

NICUに入院中のCHD児の母乳育児を行うことに対する母親の思いを分析した結果、以下のことが明らかとなった。

1. 胎児診断後、母乳育児の希望が諦めへと思いが揺らぐことから、母乳育児の可能性を説明するなど妊娠中からの精神的支援が必要である。

2. CHD 児の母親は、母乳育児を希望し、母乳育児により喜びや満足感を得ているが、児にかかる負担を気にする思いがある。その思いに寄り添った、産褥早期からの母乳分泌促進や継続に向けた支援、安心して直接授乳できるよう個々の状況に応じた支援、母乳育児以外のケア参加の促しなど、育児への参加感と母親役割に対する満足感が得られるような支援が重要である。

(本研究は2019年度大阪府立大学大学院修士論文の一部を加筆修正したものである)

本研究の内容に関連する利益相反事項はない。

## 文 献

- 1) 松岡隆, 関沢明彦. 先天性心疾患. 関沢明彦, 佐村修, 四元淳子編. 周産期遺伝カウンセリングマニュアル2版. 東京, 中外医学社, 2017, 157-160.
- 2) 川瀧元良. 胎児診断率. 川瀧元良編. 胎児心エコーのすべて. 東京, メジカルビュー社, 2018, 304-311.
- 3) 石川浩史. 産科医の役割. 川瀧元良編. 胎児心エコーのすべて. 東京, メジカルビュー社, 2018, 340-343.
- 4) 豊島勝昭. 新生児における先天性心疾患の診断と治療. 仁志田博司編. 新生児学入門第5版. 東京, 医学書院, 2018, 217-227.
- 5) 井村總一, 多田裕, 仁志田博司, 他. 栄養計画. 新生児医療連絡会編. NICUマニュアル第4版. 東京, 金原出版, 2012, 262-271.
- 6) 宮沢篤生, 渡井有. 壊死性腸炎 (NEC). 日本新生児成育医学会編. 新生児学テキスト. 大阪, メディカ出版, 2019, 393-395.
- 7) Combs VL, Marino BL. A comparison of growth patterns in breast and bottle-fed infants with congenital heart disease. PEDIATRIC NURSING. 1993, 19 (2), 175-179.
- 8) Marino BL, O'Brien P, LoRe H. Oxygen Saturations During Breast and Bottle Feedings in Infants With Congenital Heart Disease. PEDIATRIC NURSING. 1995, 10(6), 360-364.
- 9) Davis JA, Spatz DL. Human Milk and Infants with Congenital Heart Disease. Advances in Neonatal Care. 2018, 1-8.
- 10) Lambert JM, Watters NE. Breastfeeding the infant/child with a cardiac defect: an informal survey. J Hum Lact. 1998, 14 (2), 151-155.
- 11) 中水流彩. 先天性心疾患手術を受ける乳幼児の母親の心理的準備と準備行動. 千葉看護学会誌. 2016, 22 (1), 33-42.
- 12) 水野芳子. 先天性心疾患の乳幼児をもつ母親が感じる困難感と対処の変化. 千葉看護学会誌. 2007, 13 (1), 61-68.
- 13) 厚生労働省. 平成27年度 乳幼児栄養調査結果の概要. <<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidouka-teikyoku/0000134460.pdf>> (アクセス: 2019年3月19日)
- 14) Barbas KH, Kelleher DK. Breastfeeding Success Among Infants with Congenital Heart Disease. PEDIATRIC NURSING. 2004, 30 (4), 285-289.
- 15) 榎守礼美. 新生児看護と看護倫理 心臓病をもつ子どもを育て始める家族へのケア. 小児看護. 2017, 40 (11), 1409-1415.
- 16) Clemente C, Barnes J, Shinebourne E, et al. Are infant behavioural feeding difficulties associated with congenital heart disease?. Child Care Health Dev. 2001, 27 (1), 47-59.
- 17) 大山牧子. 先天性心疾患の赤ちゃんとも母乳育児. Neonatal Care. 2006, 19 (11), 77-81.
- 18) 田中利枝, 永見桂子, 益野元紀, 他. 早産児を出産した母親の母乳育児をとおした思い. 母性衛生. 2014, 55 (1), 172-181.
- 19) 田中利枝, 永見桂子. 早産児を出産した母親が母乳育児を通して親役割獲得に向かう過程. 日本助産学会誌. 2012, 26 (2), 242-255.
- 20) 岡田佳子, 佐々木睦子. NICUに入院中の早産児で低出生体重児をもつ母親の搾乳継続に対する思い. 香川大学看護学雑誌. 2017, 21 (1), 13-24.



**Mothers' thoughts on breastfeeding their infants  
with congenital heart disease during NICU hospitalization**

Kinki University Hospital

Yumiko Yamasaki

Graduate School of Nursing, Osaka Prefecture University

Yukari Nakajima    Minako Saho    Kaori Watanabe

**Abstract**

**Aim:** The study aims to elucidate mothers' thoughts on breastfeeding their infant while admitted to the neonatal intensive care unit (NICU) with congenital heart disease (CHD).

**Methods:** Semi-structured interview was conducted with nine mothers of infants younger than 15 years with CHD. Each experienced breastfeeding their infant during their NICU admission. Interview data were analyzed qualitatively and inductively.

**Results:** Results indicated that mothers of an infants with CHD experienced a complex mixture of thoughts, including "delight from the potential for breastfeeding, a thought they nearly surrendered during pregnancy following results of a prenatal test". After delivery, the mothers "hoped the infant would drink as much breast milk as possible to improve their condition". However, they "I don't care about breastfeeding because it is better for my baby to drink and grow". The mothers also expressed the following thoughts: "delight that their infant is recovering through direct breastfeeding"; "wishing to fulfil the role of a mother"; "concern regarding the burden on the infant during direct breastfeeding"; and "dismay about breastfeeding under restrictions".

**Conclusion:** Participating mothers wanted to breastfeed but were also concerned about burdening their infant. It is important to consider the mothers' aforementioned thoughts when providing breastfeeding support, including prenatal psychological support, promotion and continuation of breast milk secretion from the early postpartum period, and direct breastfeeding according to the individual's condition. It is important to encourage breastfeeding support and infant care participation to provide a sense of participation in child care and satisfaction with the mother's role.

**Key words :** congenital heart disease, breastfeeding, NICU, mother